

# 山形県民教連通信

<http://www.asahi-net.or.jp/~gy6e-kjm/>

2020.03.26 No.68

## Contents

- 巻頭言「冬の学習会を終えて、さあ、これから」 ... 1
- 県民教連「冬の学習会」に参加して 記念講演 ... 2
- ことば・作文 生活指導...4 算数・数学 社会科学...5
- 随想「沖縄で暮らす50日間」 ... 6
- 県民教連サークル紹介 ... 7
- 東北民教研「天童集会」のご案内 ... 8

山形県民間教育研究団体連絡協議会 通信  
 <発行人> 山形県民教連事務局  
 〒990-0044 山形市木の実町12-37  
 県教組山形地区支部内  
 TEL/FAX 023-631-2112/2126  
 E-mail yamagata@yamagata-kenkyousou.gr.jp  
 <編集人> 鬼島 悦雄 kijima@e.email.ne.jp

## 巻頭言

### 冬の学習会を終えて、 さあ、これから



山形県民教連会長 設楽 隆雄

2月下旬、いつもなら厚い雪でおおわれているはずの庭先には雪がなく、フキノトウが顔を出していました。今年は、私が生まれて以来の記録的な少雪です。早いなあ、もう春が来たかあ、と思いつつ愛でました。そして、夕食には天婦羅にいただきました。「春が来た」「雪解け」、いい言葉だなあと思いつつ。

はじめまして。2020年の山形県民教連総会で会長に選出された設楽です。どうぞよろしくお願ひします。

新型コロナウイルス感染がなかなか止まりません。政府の自粛要請によってたくさんのイベントが中止に追い込まれたり、行動が制限されたりしています。その影響が、様々なところにあらわれ国民の生活を脅かしています。そういった中で、安倍首相は独断で「小中高の全校一律の休校要請」を行いました。「休校を決めるのは自治体」であ

るといふ法律を無視し、専門家の意見も聞かずに行ったことは問題です。その結果、子どもや教師、保護者のみならず、働く人々の生活や経済にも大きな影響をもたらしました。民主主義が首相の勝手なパフォーマンスによって崩されています。

しかし、全国で404校の公立小中高・特別支援学校は、独自に判断し休校せず授業を継続する道を選びました。従属が多い昨今の教育現場において、自分たちの地域を見つめ、子ども、保護者、学校関係者などと一緒に考えて決断したことは称賛に値し、私たちに勇気を与えてくれました。

民主主義が守られていないということでは法律の解釈を勝手に変更した「検事長の定年延長問題」があります。権力を監視し、唯一、捜査・起訴できる検事長に、安倍首相は自分を擁護する検事長を就任させようとしています。法律では、検事長の定年延長は適用外としているのに、定年延長の規定のある国家公務員法を適用しているのです。そして、衆議院で指摘されると、閣僚などが「つい言い間違えた。」「口頭で決裁をとった。文書はない。」と答え、さらに民主主義を壊しています。

2014年の内閣法制局長官人事も同じでした。慣例を破り安倍首相は自分よりの長官を誕生させ、憲法解釈を変更させ「集団的自衛権行使容認」の閣議決定をしたのです。今の政権は、民主主義の

「子どもも先生も親も楽しい学校を創造しよう」 - 子どもが“おがる”学校を -

## 第69回東北民教研 天童集会

講演 室井 佑月 さん(女優 作家 TVコメンテーターほか)

テーマ「この国は変わらないの?」

他に、教科別・課題別に18の分科会など

8月8日(土)~10日(月) 会場は、天童温泉「滝之湯ホテル」他

実行委員 大募集中!!

みんなで集会をつくりあげましょう!

根幹の一つである三権分立まで壊そうとしています。

昨年12月、非組合員の教職員に「変形労働時間制が入ってきそうで大変だね。」と話したら、「それは何？」と返答され、驚きました。この法改正によって一番苦悩するであろう教職員がこの改正（悪）の実態を知らなかったのです。多忙で報道を見る時間もなく働き続けさせられているブラックな教育現場を垣間見た気がしました。

そういう中で、冬の学習会の内田良氏の講演には、山形地区支部が昨年に引き続き労働闘争という位置づけをしてくれたことで、23分会からの参加者を含め全体で70名の方々が集まりました。内田先生は、「保護者と手を結ぶこと」「労働者としての意識を持つこと（決められた時間で最大のパフォーマンスをあげること）」「令和3年の県条例の制定に向けて、『変形労働時間制』導入の前提となっている『閑散期』は教育現場にはないというエビデンスをもつこと」などと、変形労働時間制の問題点やこれからの運動の仕方を指示してくださいました。

6つの分科会では、実践報告や実践講座が行われました。子どもたちが楽しくわかることを考えて取り組んだ実践レポートなどをもとに活気ある話し合いが行われました。

2020東北民教研天童集会実行委員会が始動しました。

早いもので254名が参加した前回の蔵王集会から6年が経ちました。天童集会は「参加者も、実行委員も、楽しく学べる魅力的な集会」「若い人にも参加してもらい、世代交代をはかる集会」にしようということで進めていきます。実行委員会では、基調骨子案を話し合い、学校や授業が危機的な状況に置かれていることを確認したり、県独自企画をやっていくことを決め、その内容を話し合ったりしました。「村山俊太郎の分科会」、稲わら細工、浜田広介を語る会などが出され、活気ある話し合いとなりました。

現在、実行委員が少ないのでぜひ実行委員になって協力していただきたく思います。また知人（同僚や若い人にも）「参加すると教師としての引き出しが増え、本当の教育がわかってくるよ。」などと声をかけていただきたいと思います。

国民のことを考えず、自分のことばかり考えている政治家が多くなっています。そして、民主主義が壊されかけています。私たちは教育を通じて民主主義を理解し、行動していく（選挙などで意思表示をする）「主権者」を育てていかなければならないと考えます。



## 山形県民教連「冬の学習会」(1月18日天童・舞鶴荘)に参加して

# 教育は無**限**

でも、

# 教員は有**限**

記念講演

## 「学校に『閑散期』なし」

・教員に導入される変形労働時間制について

講師 内田 良 さん(名古屋大学)



冬の学習会の講演は、今や全国各地から講演依頼が殺到している内田良先生から、昨年に引き続き数多くのデータを紹介していただきながら、「データをきっちり収集する」「データの推移を示す」「データによって制度設計の確からしさを評価する」等についてわかりやすくお話をいただきました。

教員の「1年単位の変形労働時間制」は衆参文教委員会でヒヤリングを行ったとは言え、「現場の現況を理解しているとは思えない制度設計」であることは、教職員なら誰もが想像できます。

以下に参加者の感想を紹介します。

「休日に仕事をしないで休んで過ごす、とても罪悪感にかられる…」ということを夫(民間企業)に話したら、「休みの日に仕事って何のための休日なの?」とキレられました。

今日の講演を聞いていて、私が麻痺していることを自覚しました。本校に勤めてから疲れすぎて

夕ご飯が食べられないとか、倒れ込んで寝てしまうということが年2～3回あります。自分の体が悲鳴を上げている危険信号だと思いました。

(40代女性)

はじめて内田先生の話をお聞きしました。来てとっても良かったです。全てがいつも考えていたことと当てはまり、データの裏付け、ロジックが明快で、こうした研究に取り組まれている方がいらっしゃるということにとても心強く思いました。この会を企画していただきありがとうございました。

(30代男性)

山形全部の先生に聞かせたい講演でした。私は県外出身で、山形の中学教師になりました。部活イケイケ人間でしたが、結婚して子どもが生まれ、育休を過ごす中で、自分の子の成長していく姿を見ていく中で、なんて酷い働き方をしていたんだろうと思知らされました。山形の方々是我慢強いというか、この問題を自分ごとに考える意識が低いのでは？と思います。

(30代女性)

超勤で貯まった時間を代休に換算して、夏休みにまとめて消化するってつもりかなと思っていました。そうすると夏季特休とか研修とか、年休とかの代わりが代休？ってことなのかなと思っていました。

講演をお聞きして「ハッ」としました。「そうすると？自分自身の超過勤務分でしか休めないってことになる？」こんな単純なことに気づいてもいなかった自分のオメデタ加減を情けなくも思いました。給特法の改変ははもっとも教師の専門職たる権利である教特法「研修」が有名無実に変容していくことにならないか？変型時間労働制をよしとすれば、それこそ教師としてのプライドを捨てることにならないか、今やるべきことは、もっと教員を増やすことに注力ではないのかと強く思いました。

(40代男性)

自治体職場に勤める者です。自治体では申請すれば時間外手当がつきます。建前は管理職の命令があつてということなのですが、実際は事後決裁です。手当を付けずに残業している職員はいますが、先生方のように年がら年中、それがあたかも通常業務のようになっているというのはさすがにありません。「子どものために」は崇高ですが、先生方の元気な笑顔が子どもにとって一番の励みなのではないでしょうか。

(50代男性：自治体職員)

教育の現場ではリスクが見える化されにくいということ、だからこそ声を出していかなければな

らないとあらためて感じました。その声を出せる人があまりにも少ない。自分の身に何か起きてからでは遅いことです。

(50代女性)

昨年に引き続き、内田先生のご講演を聞いて本当に良かったです。私はまだ教職2年目ですが、「子どもたちのため」の教育活動や自分の責務を果たすということをごさ意識してきました。

でも、このまま気づかないでいると、自分の周囲の人たちを自分自身も含めて犠牲にしていくことになるかもしれないと、改めて気づかされました。

(20代男性)

働き方改革の実効性、部活指導のあり方、長時間過密労働等への問題意識が教育現場の中でもそうですが、私の所属する町議会の議員間でも他人事のような関心度です。教育現場の実態を私も訴えていきたいと思ひますし、教育行政も含め先生方はもっと声を上げて欲しいと思ひました。

(30代男性：町議)

運動会の午前実施、夏休みのプール開放廃止等少しずつ動いては来ていますが…。やることは増える一方という感じしかしません。人手も足りず、いつも一杯一杯でやっています。みんなが健康で働けるようにしたい、本当にそう思ひます。

(50代女性)

昨年に引き続き、本当にいいお話を聞くことができました。「みんなが楽しく」という価値観が広がると、もっとゆとりのある社会になるのかもしれないと思ひました。「制度設計に誤りがあれば、形骸化は必然となる」という言葉もほかの教員の方々に伝えていかななくてはと思ひました。自分の仕事や働き方も見直していきたいです。

(30代男性)

「子どものため」という言葉の魔法と暴走にストップをかけ、立ち止まって考えてみることは必要だと思ひました。講演後の質疑で話題になった「午前5時間の時間割」も勤務時間を超えた実労働や児童の心と身体のリズム等をちゃんと考えていく必要があります。

そもそも、そんなにしてまで授業時間を増やさないといけないのか、議論もそこそこになっていないのか、よその地区の話でしたが不安な動きです。おかしくないか？と言う教師はいなかったのだろうか。

(40代女性)



冬の学習会2020

## 実践講座/ワークショップ 分科会 報告

### ことば・作文と教育

言葉の力と書く力を高め「考える子ども」を育てる教室をつくらう

言葉の力と書く力を高め

「考える子ども」を育てる教室を作ろう！

(近野 享子 山形作文の会)

参加者は奥山さんと私の二人。レポートの内容は中学1年教科書(光村)の教材「わかりやすく説明しよう(書く)」と「好きなものを紹介しよう(書く・話す)」を合わせて「中学1年生の主張(書く・話す)」と題した授業の実践記録。生徒たちは日々の生活の中から題材を探して原稿用紙2~3枚にまとめ、聞き手に伝えたいことをスピーチするという学習。今回は、一生徒の作文をどう読んだらいいのかを話し合いました。

〇子の作文は原稿用紙5枚以上に及ぶもので、内容は小学校3・4年生のときにクラスメイトから仲間外れにされてつらかったこと。5年生になり、それを乗り越えようと友達との関係づくりに悩む中でとった行動が先生から誤解されて涙が止まらなかった経験。そこから、「思いは直接(相手に伝えよう)」という主張にまとめ、丁寧に聞き手に伝えました。

〇子の当時の思いが作文の一語一語から感じられ、原稿用紙5枚では足りなかったのではないのかという奥山さんのご指摘にドキッとしました。こういう作文に出会ったときは丁寧に話を聞いてやりたいと思いました。国語の授業で生活を綴るという学習は皆無になりつつありますが、その手立てさえわかれば、生徒たちには生活の中にある様々なことを書きたい、知ってほしいという思いがあるようです。相手を意識して言葉を選んで書くことや仲間の言葉を真剣に聞き取るうとするときこそ、本当の言葉の値打ちが子供たちに実感できるのではないのでしょうか。そこを大事にしなが言葉の力を高めていきたいものです。

(近野 享子)



## 生活指導と教育

子どもの人間的な成長と発達を  
励ます自治的活動をつくらう



参加者6名でベテランが多く、若い教師の参加が少なかったのが残念。(記念講演で帰った方が多かった)

初めに、私(大場)から、「少し早めの新年度の学級づくりの進め方~困った子も困っている子も輝く明日へ!~」で講座を行う。

担任が決まったら、昨年度の学級経営から、課題を抱えている子や支援が必要な子はあるか。配慮の必要な家庭があるかなどの情報を大まかに把握しておく。1年間の主な行事を捉えて、どういう活動を取り組んでいくか大まかに立てる。班づくりは、初めは名簿順で作成、学級の様子を見ながら、好きな人同士や班長会提案など子どもたちが話し合いで決められる力をつけていく。

次に、植松保信さんから、「どの子も輝き、居場所のある学級集団づくり」で講座をしていただいた。

安心して話し合える学級づくりをめざす。集団には、目的を持つ 自主的に動かすリーダー機関が必要 目的を遂行するための話し合いやルールが必要である。活動を創ることで、居場所づくりや出番づくりが進み、個人と集団の関係を学ぶ。集団のリーダーを育てるには、リーダーを支えるフォロワーの指導やリーダーを選ぶ力をつけることが大切である。班長会で原案を立て、学級会で話し合うことが重要。学級会では少数意見を取り入れながら、全員一致を前提にみんなで決めたことはみんなで守る。活動後は総括を行い、次の活動へとつなげていく。

発達にもつれのある子どもに対しては、「なぜ?」を問う指導を大切にする。なぜそういうことをするのか、本人や周りの子、班長会などから事前に聞いてみる。その子に立って考えてみることでわかってくることもある。また、保護者には、要求ばかりでなく、子育ての大変さを受け入れ、共感的なスタンスで話を聞くことが大切である。時間

がない中で、給食の時間や読書の時間など工夫して話し合いを持つことで、子どもたちのリーダー力や集団力は高まっていき、今こそ集団づくりの取り組みが重要である。(大場 理之)

## 算数・数学と教育

考えることが「わくわく」する  
算数/数学の授業をつくらう

参加人数は5名と少なかったものの、疑問に思ったことをすぐに問うことができ、楽しく充実した分科会でした。

【模擬授業】新しい量「速さ」 早坂 久佳

「速さ」は、学習指導要領の言うような「異種の2つの量の割合」ではなく、道のりと時間から創造される新しい量であり、内包量として考えたい。実際に三輪車に乗っての速さ競争や動くおもちゃの速さ調べで、子どもたち自身で実感・納得できる授業づくりを目指した。

【レポート】「何個×何個? 長さ×長さ?」  
阿部 敏恵

「初めて長方形と正方形の面積の公式に出会う時に、長さ×長さを実感を持って納得してほしい」という思いから授業を組み立てた。「求積原理説明器」、さらに「ミニ求積原理説明器」と、子どもの反応をていねいに見ながら、思考を引き出すような教具を工夫していった。

【レポート】教科書の問題点と子どものつまずき  
山川 貴子

一生懸命考えようとする子どもたちにとって、教科書はそれほど頼れるものではない。タイルやタイル図で考えること、式には単位をつけること、教具を使うこと、2位数の学習は位取りをやってから、など、今すぐにでもできることから実現させたい。(山川 貴子)



## 社会科学と教育

地域の社会的事象から学び、  
考えさせ、白熱教室をつくらう!

\*「子どもたちが社会科を学ぶ意義を考える  
私たちが社会科の授業を行う意義をふりかえる」  
【実践講座】(田 より)

これまでの山形県内での平和教育の流れを追跡しながら・・・昨年からの「令和の日々」の中で展開する不条理な事項の連続は、生徒たちや教師たちを含めて夫々に、多くの「生き辛さ・キナ臭さ」を感じさせてきたことに注視してきた。



例えば、「消える昭和の戦争遺跡」「バンクシーに寄せられた“諦め”の心情」「新天皇の“象徴権力”」「ドキュメンタリー山形の放つ“平和力”」「8月だけに展開する戦争と平和の記憶」等々、それは私たちの身の回りの「平和を学び得る教材」である。しかし、誰もが気付かない現実と指摘したい。

子どもたちの描く「平和観・世界観」は乏しくもあり、かつ豊かな未来・可能性を秘めている。彼らの誠実な感想文の数々は「平和学習を進めるための原石」であり、そこから多様な“個”が透けてくる。もっと教師たちが、今こそ勇気をもって怯まずに、「積極的平和」を“見える形”にして、子どもたちに投げかけてほしいと提起した。

【報告など】

今野氏...憲法改悪について～「自衛隊を書き込む」9条の改正に関わって、その緻密な「資料の取材」を駆使して、「自民党案の問題点」(=ごり押ししてくる今日的な動向と背景)を明らかにしてきた。

今日の自衛隊の現状は、日々のメディア情報をはるかに凌駕しており、軍事訓練の実態は異常なほどに肥大化し、世界エリアに及んでいる。まさに「戦争する国への布石」を超えている。

しかし、国民の関心は極めて低く、ほとんど知られていない。如何にしてこの現実を伝えてゆくかの方策が喫緊の課題でもある。事実を知れば、国民の「怒り」は必然であると思った。

菅野氏.....尾花沢で「親子で平和の映画を見る会」を実施したが、関連してのピラ配りに官憲のブレーキがかかった。核兵器禁止の請願活動は署名など地道に進め、各自治体での拡大・深化を進めているが、地元尾花沢や東根などの取り組みはいまだ不十分であり、今後への課題としている。

その他...高橋氏や黒沢氏からの話題提供はあったが、全体的に時間不足で十分な討論が出来なかった。東北大会に向けて、地元山形からも多くの参加を呼び掛けたい。(田 忠宣)

## ～ 随想 ～

### 沖縄で暮らす 50日間

早坂 久佳

退職してから一人で1ヶ月  
単位の生活を観光客で賑わう

恩納村で3回程過ごしてきたが、今回は妻と犬と  
一緒に南城市の田舎暮らしを選んだ。

3年ほど前は、翁長知事や名護の稲嶺市長をは  
じめとするオール沖縄が辺野古をめぐって国と真っ  
向から闘いを挑み、新基地建設差し止めの係争中  
の時だった。この流れは安倍政権に苦しめられて  
いた人々と全国の市民運動を励まし、今の野党共  
闘の先駆けとも言うべきものだった。

その後、新基地建設差し止め裁判に敗訴しさら  
には高江のヘリ基地の強引な完成、そして名護市  
長選では一昨年稲嶺氏を落とし翁長知事を病気で  
失った。リーダーを失い市民はどんな選択をする  
のだろう、5割を切るんじゃないかと落胆して見  
ていたのだが、玉城デニー知事の誕生と県民投票  
で7割もの支持で辺野古新基地NOの選択を勝ち  
取った。凄いぞ沖縄、あなたたちは屈していなか  
ったと。

久しぶりに降り立った沖縄、1月とは言え暖か  
な日差いで25度の夏日があった。今回の50日  
は、妻と犬と普通の生活をしながら観光というよ  
りは、沖縄の現在より過去についてさらに深く知  
ることだった。なぜ沖縄は屈しない強さがあるの  
か、それは歴史を深く知らないヤマトウンチュ  
ーが勝手に解釈する理不尽さを覚えたからでもあ  
った。

直木賞を受賞した真藤順丈氏の「宝島」は物語  
とは言え、史実を題材にしているので、瀬長亀治  
郎やキャラウェイが登場する。戦時中のことはわ  
かって復帰前後のことは観光ではほとんどわか  
らない。対馬丸記念館や辺野古に行っても不屈館  
には足を運ばないような感じた。

アメリカの衛生兵を描いた「ハクソー・リッジ」  
という映画は、沖縄戦での激しい闘いを言葉より  
も映像で描いていたが、そこから後はどうも希薄  
なのだ。翁長知事が発した「ウチナーンチュ、ウ  
シェーティナイピランド」の本当の意味は、戦後  
から今の沖縄までのことを知らずして理解できな  
いだろう。

それで、長編ではあるが「宝島」と言う小説は



戦後の沖縄を描き、沖縄口をすべての文に交えて  
書いてあり、戦後と今をつなぐ出来事と同時に人々  
の心を想像できるものになっている。また瀬長亀  
治郎の不屈館に出かけたことや沖縄テレビの特番  
「サンマデモクラシー」をこちらに来て見たこと  
で、物語から真実へと頭の中が整理されてきてい  
る。

ところが、辺野古埋め立ての賛否を問う県民投  
票後、辺野古大浦湾への埋め立ては停まるどころ  
かかえって激しくなり、何も変わらぬ空しさが漂  
うようになっているようだ。そればかりではない。  
米軍の落下物が続き、それに抗議するも飛行ルー  
トが変わることもなく、また不安な日常を迎える  
というくり返した。空しさから諦め感が生まれて  
もおかしくない状況だ。

そんな中でドキュメンタリー映画「ちむぐりさ」  
が完成し、封切りの初日に観に行くことが出来た。  
初日の挨拶もあった。今の沖縄の苦悩がヤマトウ  
ンチューの一人の女の子『菜の花さん』の目を通  
して見事に描かれていた。ちむぐりさとは「悲し  
い」という言葉のない沖縄にある他人の悲しみを  
自分のこととして思いやる気持ちを表す言葉だそ  
うだ。テレビ局が作った映画と言うことで毎日の  
ように宣伝している。マスコミは真実や歴史を伝  
えることで、今の閉塞感を乗り越えていこうと問  
いかけてくれているようだ。

玉城知事もアメリカへの陳情だけでなく、日本  
各地の地方自治体へ足を運び、沖縄の現状を伝え  
るオルグを続けている。沖縄の苦悩を理解しよう  
としない政府自民党安倍政権を変えていくには、  
この基地問題を沖縄だけのものにせず日本全体の  
問題としていくことが今求  
められている。ちむぐりさが  
日本中に広ま  
ることを願っ  
てやまない。



港川漁港の  
朝焼



摩文仁の丘の  
夕暮れ  
(早坂 画)

# 県民教連サークル紹介



- 子どもたちが「わかる」「楽しい」という授業を創ってみませんか？
- 子どもたちが、生き生きと活動する学級をつくってみませんか？
- 教育者としての力量を高めてみませんか？

民教研サークルで一緒に学び合い、教員としての力量を高め、民主的な人格をもった、豊かな人間を育てていきましょう！

※下記の一覧表を見て、興味があるサークルがあれば、事務局に連絡をしてください。

## 【民教研（民間教育研究団体）とは】

皆さんが行政の下で学んだ研修会（新採研、経5年研など）は官制研と言います。それとは違い、民間で教育の指導法などを研究してきた団体を民教研（民間教育研究団体）と言います。民教研は、常時その研究成果を報告し、教員の力量や日本の教育の質を高めてきました。

民教研（民間教育研究団体）には69年以上の歴史があり、全国の仲間たちとの研究で培ってきた素晴らしい指導法や、子どもたちを育てるための教育観、児童観があります。



No.	略称（サークル名称）	主な内容
1	生活指導サークル(集団づくり) (山形県生活指導研究協議会)	集団づくり(学級、学校、児童会・生徒会など)を通しての民主的な人格の育成
2	数教協・算数サークル (山形県数学教育協議会)	算数・数学の授業づくり
3	科教協・理科サークル (科学教育研究協議会山形県支部)	理科・科学の授業づくり
4	歴教協・社会科サークル (山形県歴史教育者協議会)	社会科の授業づくり 歴史の研究
5	山形作文の会 (作文の会)	豊かな人間性を育むために、身近な生活を見つめて感じたことや思ったことを綴らせる指導のあり方
6	サークルぱんどり (国語研究サークルぱんどり)	物語教材の読み取りの力などを高める指導のあり方
7	体育同志会 (学校体育研究同志会山形支部)	子どもたちが達成感を味わうことのできる体育指導のあり方
8	障害児研 (全障研山形)	特別支援教育の指導のあり方 情報の交流
9	健康サ (山形県健康サークル)	養護教諭の指導のあり方 情報の交流 教材作成
10	田川民研 (田川地区民間教育研究団体連絡協議会)	民主的な人格づくり 授業づくり
11	高生研 (山形県高等学校生活指導教育研究協議会)	集団づくり(学級、学校、生徒会など)を通して、民主的な人格の育成
12	新英研 (山形新英語教育研究会)	英語指導のあり方
13	保問研 (山形県保育問題研究会)	保育指導のあり方を学び、技能を高める



ぜひサークルに来てください。まっています！



「子どもも先生も親も楽しい学校を創造しよう」  
—子どもが“おがる”学校を—

## 第69回東北民教研

# 天童集会



8月8日(土)PM1:00開会集会 PM1:30より

# 室井佑月さんの講演

1970年青森生まれ 女優 作家 TVコメンテーターほか  
講演テーマ

「この国は変わらないの？」

ソナクなし！本音でぽっさり、かっこよく  
エッセイ最新刊より



集会日程 8月8日(土)～10日(月)山の日

- ・教科別・課題別に18の分科会
- ・東北の子どもをとりまくテーマで4つの特別分科会
- ・体験と実感で理解する分科会ごとの入門講座
- ・山形ならではののたのしみ企画

### 主会場

天童温泉 ほほえみの宿 滝の湯

〒994-0025

山形県天童市鶴田本町1-1-30

023-654-2211

ほか天童市内小学校を予定

